

中部小学校教育研究会一斉研修 生活科・総合的な学習研究部

研修テーマ **豊かな体験や活動を通して主体的に学ぶ子どもの育成**

～探究的・協働的な活動による学びの創造～

- 1 日 時 平成 28 年 6 月 8 日 (水) 13 : 20 ~ 16 : 45
- 2 会 場 琴浦町立赤碕小学校
- 3 講 師 兵庫教育大学 溝邊和成 教授
- 4 研修内容

昨年に引き続き、兵庫教育大学の溝邊和成教授を講師として招聘し、総合的な学習の時間の授業研と講義を受けた。

赤碕小学校の 3 年生の授業を通して、児童の話し合いの課題を明確にすること、学習をだれに対して伝えるのかを明確にすること、本時の授業で子どもたちの何をねらっているのかを明確にすることを指導助言していただいた。

講義は、「授業づくりのポイント」と題して講演していただいた。

講義の中では、単元名の分析をすること、主体的な見取りをすること、年間指導計画について教えていただいた。

単元名は、子どもたちがめざすものがはっきりと明記してあるものにしていくことが大切であると言われた。単元名から可視化していく気持ちでつくとよいということも教えていただいた。

主体的な見取りをするために、座席表の活用を提案された。座席表に児童の反応を書き込むだけでなく、授業の流れ、児童の動きなどを書き込むとよりよいのではとお話された。(ラーニングスケッチの提案)

年間指導計画は、学校目標を意識し、それを具現化するための指導の重点をおさえて立てることとお話された。学年テーマも 6 年間を通して、連続性や継続性があるかを意識していくことの大切さも教えていただいた。学校の環境(地域の特性、他教科との関連)を入れることも大切だと言われた。



- 1 日 時 平成28年8月2日(火) 9:00~12:00
- 2 会 場 上灘公民館
- 3 講 師 兵庫教育大学 溝邊和成 教授
- 4 研修内容

8月の研修会も溝邊先生を招聘して、研究会を開催した。8月の講義は、「探究的・協働的な学びを支援する生活科・総合的な学習の時間のあり方」として、講義していただいた。内容は、「探究的・協働的とは」ということを中心に話をしていただいた。

探究的とは、物事を論理的に考えることである。それを生活科・総合的な学習の時間では、主体的に課題を設定できる児童にすることをめざしていくことがそれにあたるのではということであった。その力をつけていくために、課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現のサイクルの時間を確保することに気をつけなくてはならない。情報収集の中で、数値化されたものか、感覚を通して得られたものかを判断して指導していくことも大切だと教えていただいた。

協働的とは、複数の人が1つの目標を共有し、実行していくことである。学習の中では、足りないところを補い合っていく、違いを認めていくことである。その活動を通して、貢献していくという気持ちを高めていきたいと考えておられた。具体的にはグループ活動をよく想定するが、賞賛すること、質問力、聞く力、要約力、読解力、批判力などが身につけているかをもう一度考えて指導していこうと話された。

探究的・協働的な学習を軸に、生活科・総合的な学習の時間では、反復性のある学習を展開していきたい。教科の特性もここにあると考え、これからの研究につなげていきたいと思う。

